

◆漁業士活用育成事業

和歌山県組織的ダイビング及びクルージングの取組視察研修

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

和歌山県における漁協の組織的ダイビング誘致及び漁船を使用したクルージングの取り組みを視察する。

2. 日程

平成22年9月28日(火)から30日(木)

3. 視察場所

- ①白崎クルーズ：漁船を利用したクルージング事業の視察
- ②堅田漁協：市場、筏釣り、釣り堀、飲食店、宿泊施設等の漁協直営事業の視察
- ③すさみ町：漁協が取り組む組織的ダイビング誘致を視察

4. 参加者

久米島漁協指導漁業士 仲与志勇

5. 引率者

沖縄県水産業改良普及センター本部駐在水産業普及指導員 中村勇次

6. 内容及び所感

平成22年9月28日から30日にかけて和歌山県の組織的ダイビングの取り組み及び組織的クルージングの取り組み等の視察研修を行った。

9月28日に和歌山県由良町沖を漁船で遊覧する「白崎クルーズ」を視察した。白崎海岸周辺は巨大な白い石灰岩が林立しており、この絶景を観光客誘致に生かそうと、由良町や観光協会及び和歌山県日高振興局などでミニクルーズの企画を立ち上げて現在に至って

いる。クルーズでは、ウミネコの産卵地の立巖（たてご）岩などの巨岩群周辺を巡り、白い巨岩の浸食などを観察した。また、クルーズで流れるアナウンスは、和歌山県日高振興局の非常勤職員（アナウンス経験有り）の協力により作成するなど予算をかけずに実施していた。集客についても特に予算をかけている様子ではなく、作成したパンフレットを白崎海洋公園内で配る程度とのことであった。クルーズ事業自体を数名で実施していることもあり、小さな規模で予算をかけずに実施しているとのことであった。同クルーズの受付についても、白崎海洋公園内の喫茶店の協力で受付をしてもらっているとのことだった。

9月29日に漁協で大規模な多角経営を実施している堅田漁協と組織的ダイビングの取り組みを実施しているすさみ町のダイビング事業の取り組みを視察した。

堅田漁協は、釣り堀、筏釣り、直売市場（とれとれ市場）、宿泊施設、居酒屋、寿司屋、温泉、保育園などを経営しており、経営感覚に優れ、漁協の出資金をほぼ独占している組合長が経営手腕を振るっているとのこと。直売市場の職員教育も徹底されており、対面販売などは大規模百貨店に近い雰囲気であった。当該漁協では、別の場所に出店していた時期もあったらしいが、採算が取れないと見るやすぐに撤退するなど、とにかくワンマンではあるが組合長の経営手腕で成り立っているようであった。

続いてすさみ町で取り組まれている組織的ダイビング事業の視察を行った。すさみ町沖合は、有数のイセエビ漁場であり地元沿岸をダイビング事業に開放することについて当初

は抵抗があったが、漁協・組合員や地元住民が出資する形で「株式会社ノアすさみ」を立ち上げてダイビング事業を行うことになった。施設等については、和歌山県及びすさみ町の助成を受けて、コンプレッサー、シャワー室、タンク、船（組合員の漁船）、保管施設、管理事務所を設置した。漁船でダイビング事業を実施することから、船底を平坦にするために魚槽の高さに合わせて板を張ったり、吃水が高い漁船用のハシゴを設置するため滑車を取り付けたりと細かな工夫がなされていた。ノアすさみが、漁船を輪番制でチャーターしてダイビング事業を実施するが、乗客数によって不公平がでないように、一月のチャーター数を合算して出動回数に応じて用船料を分配している。ダイビングポイントに設置するブイは漁業用の使い古しを利用している。ノアすさみは、大きな収益を上げているわけでは決してないが、可能な限り経費を削減して漁業者や株主である地元へ利益を分配できるような地域に密着した経営を心がけているとのことであった。



白崎クルーズの様子



クルーズの途中にあるたてご岩



白崎クルーズ出航前の様子



白崎クルーズ代表川口氏との意見交換



堅田漁協が経営する釣り堀の様子



とれとれ市場の店内の様子



釣り堀は平日にも関わらずたくさんの釣り客で賑わっていた。



堅田漁協の宿泊施設「とれとれヴィレッジ」



堅田漁協の経営する「とれとれ市場」



宿泊施設は円形の建物で統一されていた



株式会社ノアすさみの事務所



タンクへのコンプレッサー



ノアすさみの施設の様子



ノアすさみで利用している漁船



マネージャーの鈴木氏が施設を案内



吃水が高い漁船用にハシゴを使用している